

2022. 12. 21

「旧金谷中学校跡地活用事業」の優先交渉権を取得

静岡リース（代表取締役社長 大橋 弘）では、島田市が実施した「旧金谷中学校跡地活用事業」に係る公募型プロポーザルに「トレーラーハウスからはじまる街づくり」を提案した結果、優先的交渉権者に選定されましたので、その概要をご案内します。

1. 応募事業の概要について（詳細は別紙「事業概要資料」をご参照ください）

- 島田市は、大井川の恵みに育まれた豊かな自然環境や、大井川川越遺跡、蓬萊橋といった歴史・文化施設など、観光資源が豊富にある一方で、宿泊施設が不足していることから観光交流客に対する宿泊客数の割合が低いという課題がありました。
- 今回の「トレーラーハウスからはじまる街づくり」は、移動が容易かつ安価という強みをもつトレーラーハウスを宿泊施設に活用し、観光後も多くの人が市内に滞在するための「ヒトが集まる街づくり」を提案するものです。
- また、トレーラーハウスは移動可能な施設であるため、地震や水害などの災害発生時には避難所や仮住まいとして迅速に島田市に提供する仕組みを構築します。
- 静岡リースでは、本事業への参画により、島田市の観光施設とのコラボレーションや食材・木材などの地域資源の活用、市内事業者との連携を通じて、島田市の経済活性化に貢献してまいります。

※事業概要資料は、プロポーザルでの提案段階での事業の方向性や施設のイメージを示すものであり、今後の調整において、内容に変更が生じる場合があります。

2. 対象地の概要

物件名称	旧金谷中学校跡地
所在地	島田市金谷富士見町 3383 番 1 外 25 筆
敷地面積	54,710.83 平方メートル（公簿面積）

【完成イメージ図】



被災時を想定

災害発生時には、即対応でき、通常時は地域資源を活用した持続可能な施設

トレーラーハウスからはじまる街づくり

皆が集える、クリーン・グリーンな街

サスティナブルな社会への取組み

災害時の活用と
通常時の両立

地域活性化

地域資源
ブランディング

withコロナ

社会への対応

トレーラーハウスからはじまる街づくり

移動が容易かつ安価という強みをもつトレーラーハウスを軸にして島田市周辺の観光資源を活用し、ヒトが集まる街づくりを構築。特に、島田市は観光資源が豊富にある一方で、観光客の宿泊施設が不足しており、トレーラーハウスによる宿泊施設を兼ね備え、観光後に市内に滞在できるようにする。また、食事等も市内企業と連携し、島田市の経済への波及も図る。

さらに、トレーラーハウスは、宿泊施設であると同時に移動可能な施設であるため、災害発生時における仮住まいを迅速に提供できる仕組みを目指す。



エンターテインメント + BCP

サスティナブルな施設づくり

①サスティナブルな施設

災害発生時のみの施設ではなく、通常時も地域資源を生かした運営で利益を確保しながら災害時に備える。

②迅速な対応が可能

有事に行政に求められる迅速性に即座に対応が可能。施設がレジャーから避難地・復興支援の拠点・仮設住宅へと変わる。

with コロナ社会へ

避難所

トレーラーハウスタウンへの避難で密回避・プライバシーの確保が可能

非常食の確保

トレーラーハウスタウンが運営するショッブタウンが備蓄倉庫になる

電力の確保

トレーラーハウスタウンの屋根、敷地等を利用して太陽光発電で電力供給

事業目的

基本計画における活用コンセプト「食、茶、スポーツ、健康、学びをテーマとして人が集い、楽しみ、憩うことができるオリジナリティある交流・賑わいの拠点の整備」に則り、多種多様なヒトが集まる施設としています。

- ・トレーラーによるオリジナリティのある街づくりにより、地元および観光客が交流できる場を創出。
- ・島田市に観光に訪れたヒトの宿泊施設。
- ・学びの拠点として活用。
- ・トレーラーハウスを移住検討者やワーケーションの場として提供することにより、体験を通じた移住促進の場として活用。
- ・地元企業と連携し、レストラン機能、茶を楽しむカフェ、ファーマーズマーケット、物品販売、ドッグラン設備による集客。



想定施設利用

①来場者

市内在住者、観光客、富士山静岡空港利用者
犬を飼ってる人（老若男女）

②年間の施設利用見込者数

50 万人以上（大井川鐵道・茶の都ミュージアム・空港利用者数から推測）

地域との連携

本施設の利用促進の為に、島田市の観光施設とのコラボに加え、地域資源を活用できる仕組みを構築していきます。島田市内業者から食などの提供、地元農家によるファーマーズマーケット、地元住民がくつろげるカフェの設置などを想定しています。また、近隣の「ふじのくに茶の都ミュージアム」との連携により、茶の魅力を発信していきます。

地域経済への貢献

本施設を観光ハブ拠点として、地域観光資源および地元業者と連携することにより、国内外の方々が島田市に足を運んでくれるようにPRしていきます。施設の施工および維持管理については、可能な限り地元業者とし、施設に必要な部材も地元から仕入れる等、配慮していきます。また、施設内で提供する食材についても地産地消に留意します。

雇用面においても、地元での雇用を考えております。

計画地周辺資源の特徴として、観光資源がある一方で、公園や飲食施設、宿泊施設などが不足している現状を踏まえ、宿泊施設としての位置づけにより、島田市に留まる観光ルートの作成などにより地元経済へ貢献していきます。

BCP・SDGs

トレーラーは、移動可能であることから、災害発生時に臨時施設として活用可能となります。また、島田市周辺の市町に災害が発生した際にも支援が可能となります。トレーラーの屋根には太陽光発電を設置し、電力の地産地消を実施します。

将来的には、同施設から排出した廃棄物に関しては、実証実験中のISOPシステムを導入し、廃棄物を燃料化し、環境課題に取り組んでいきます。

ISOPシステム：亜臨界水処理システムを利用し、有機系廃棄物を安全に処理・発電することを目指します。また、移動式もあるため、災害時に活用可能です。

トレーラーハウスタウンを象徴する4つの価値

安心

withコロナ社会と向き合い
乗り越えようとする市民へ

ストレスフリー

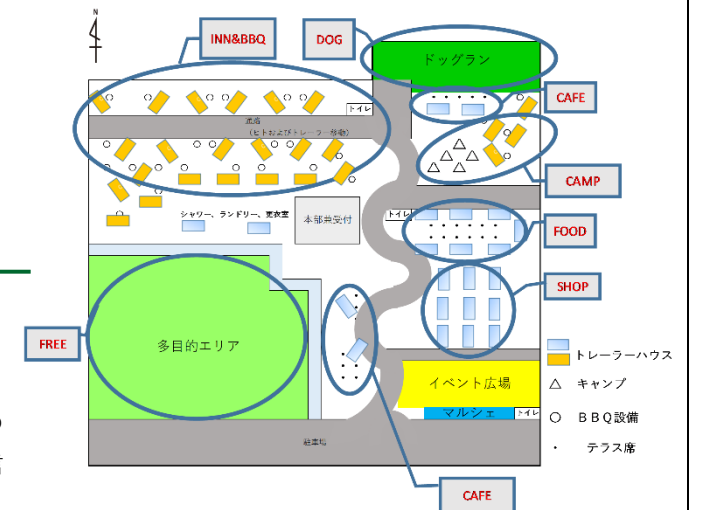
心にやすらぎを与える
非日常空間

機動力

災害発生時移動が可能
周辺市町・他県への支援可能

強い意志

困難な局面でも、市民に
寄り添う行政の強い意志



【トレーラーハウス敷地利用計画】